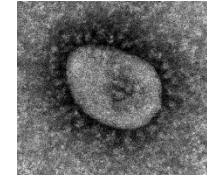
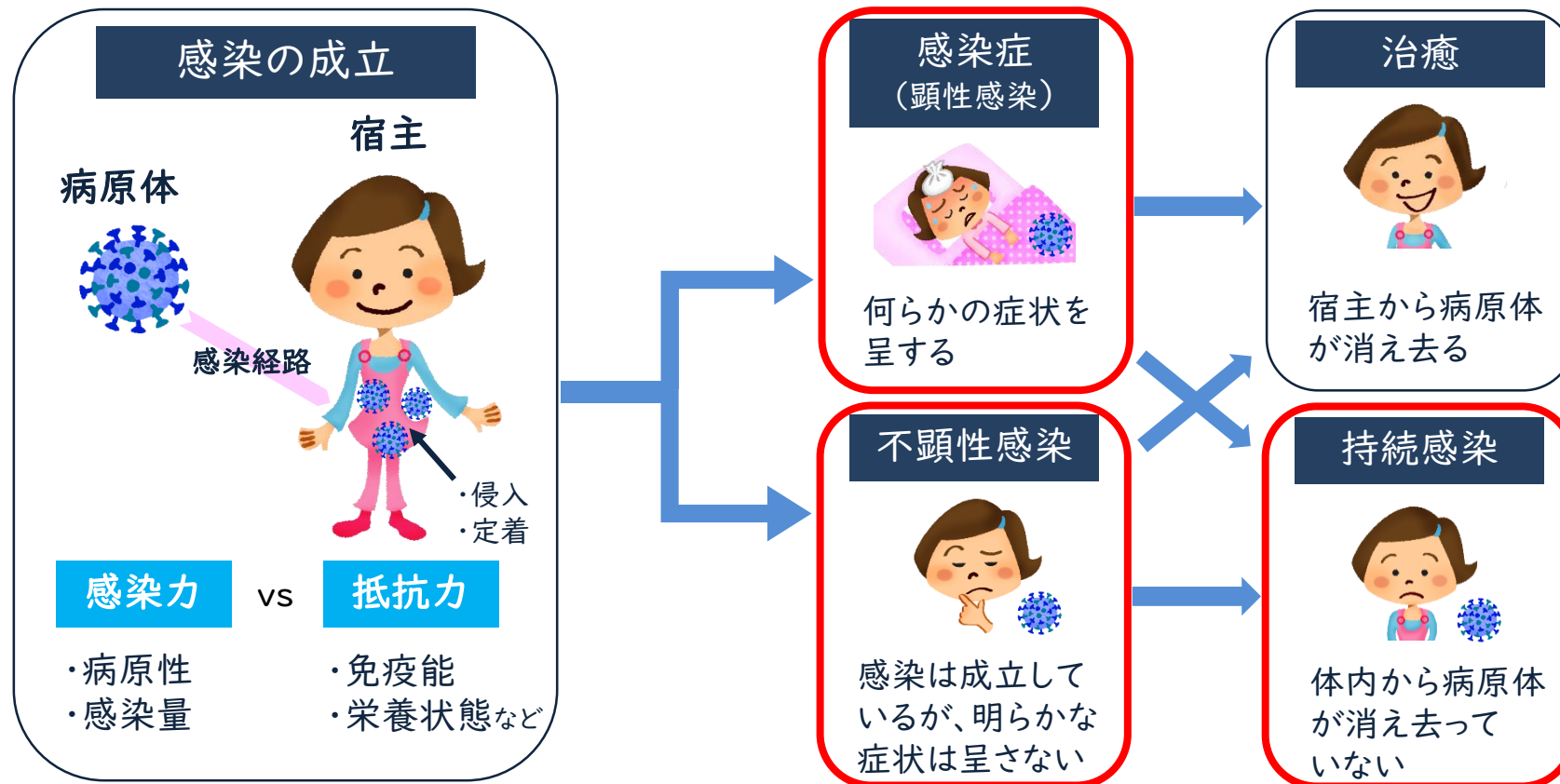


感染症とは

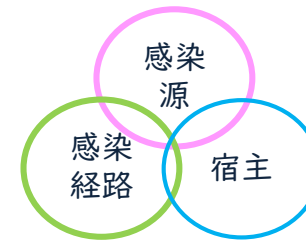
細菌・ウイルス・寄生虫などの病原体が人などの宿主に侵入し、定着し、増殖することを感染という。
感染により、宿主が何らかの症状を呈する状態を感染症という。



新型コロナウイルス
オミクロン株
(国立感染症研究所より)



感染成立の3要素



感染源（病原体）



病原体: 感染源を有する微生物
感染源: 病原体が定着・増殖している場（生物・無生物）

対策

- ・早期発見・早期治療
- ・消毒
- ・隔離

感染経路



病原体が感染源から新たな宿主に侵入するまでの経路

対策

- ・消毒
- ・休業
- ・媒介動物の駆除 ・国境検疫

宿主

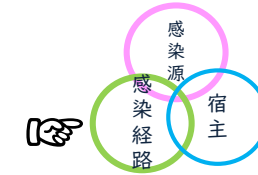


病原体が感染し、新たに定着・増殖する場

対策

- ・免疫能を上げる
 - ☞ 予防接種
 - ☞ 十分な休養など
- ・免疫グロブリン

標準予防策（スタンダードプリコーション）



すべての湿性生体物質は感染の危険性がある、との考えに基づく感染対策

湿性生体物質とは ・血液 ・体液（汗は除く） ・嘔吐物 ・排泄物 ・創傷皮膚、分泌物 ・すべての粘膜

患者および周囲の環境に接触する前後には手指衛生を行い、
血液・体液・粘膜などに曝露するおそれのあるときは个人防护具を用いる。

➤ 手洗い・手指消毒

➤ 以下の湿性物質と接触が予想される時、予防具を用いる。

湿性物質に触るとき → 手袋

口・鼻の粘膜が汚染されそうなとき → マスク

衣服が汚れそうなとき → プラスチックエプロン・ガウン

目の粘膜が汚染されそうなとき → アイシールド・ゴーグル
(飛沫が目に入る)

顔、目、口、鼻の粘膜が汚染されそうなとき → フェイスシールド

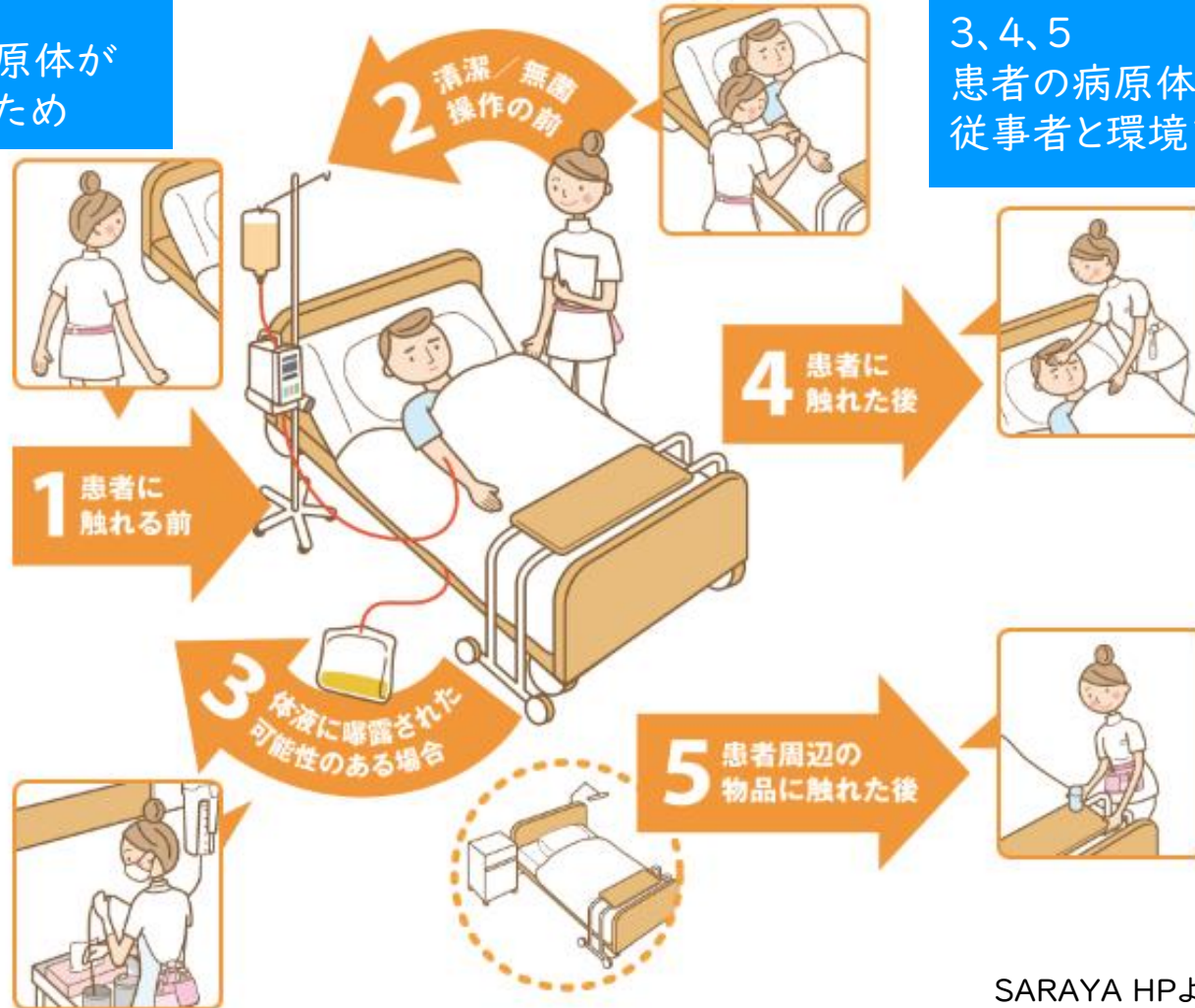
👉 自分を守る

👉 自分が媒介者にならない

2.
患者の体内に、病原体が
侵入するのを防ぐため

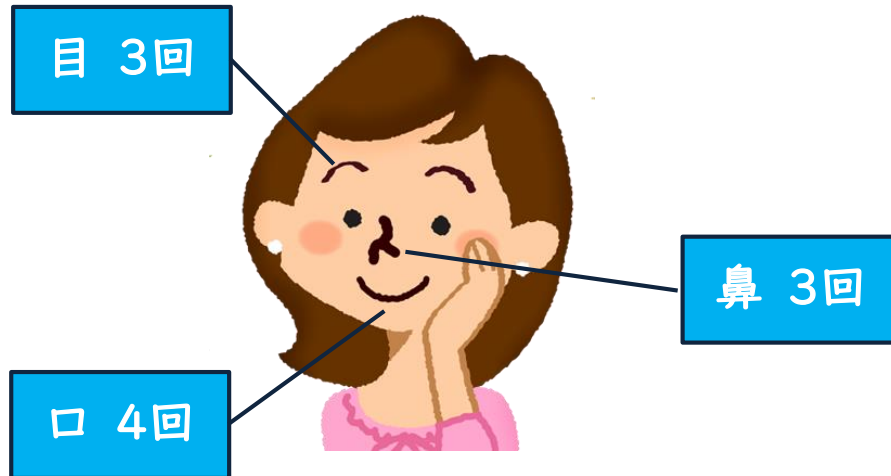
1.
手指を介して伝播
する病原体から、
患者を守るため

3、4、5
患者の病原体から、医療
従事者と環境を守るため



手指衛生の大切さ

人は無意識に「顔」を触っています！
1時間に平均23回



そのうち、目、鼻、口などの粘膜が、
約44%を占めています！

例えば新型コロナウイルス

環境表面種類	感染力 保持時間
ステンレス銅表面	7日
木材表面	2日
紙・ペーパー表面	3時間
ティッシュペーパー	3時間
ガラス表面	4日
プラスチック表面	7日
衣類	2日
紙幣表面	4日
マスク内側	7日
マスク外側	>14日

滴下ウイルス量：ウイルス量 107.8pfu/mlを5 μ l滴下
保持温度：22℃



正しく手洗いをしていますか

※ しっかり手洗いした後は、
さらに消毒液を使用する必要はありません。

手洗い		残存ウイルス
手洗いなし		約 100 万個
石けんや ハンドソープで 10 秒もみ洗い後 流水で 15 秒すすぐ	1 回	約 0.01% (数百個)
	2 回 繰り返す	約 0.0001% (数個)

手の甲側

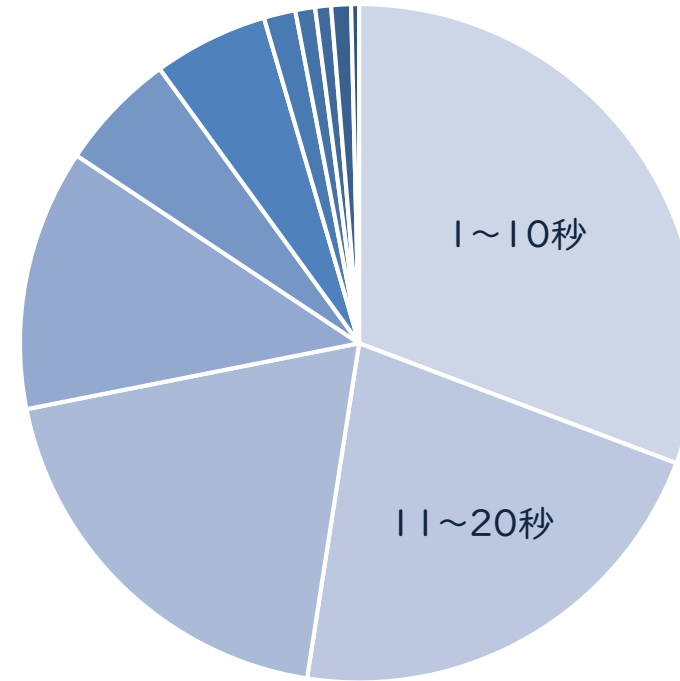
手のひら側



- 最も不十分になりやすい部位
- 不十分になることが多い部位
- 不十分になることが少ない部位

参考 : Taylor, L., Nursing Times, 74, 54 (1978)

20秒以下の不十分な手洗い 全体の53%



- 1~10
- 11~20
- 21~30
- 31~40
- 41~50
- 51~60
- 61~70
- 71~80
- 81~90
- 91秒以上
- 洗わない

正しい マスクの着脱

再度装着するときも、
表面に触れないように着用。

着



鼻と口の両方も
確実に覆う



ゴムひもを耳にかける



隙間がないよう
鼻まで覆う

脱



手を消毒



マスク表面に触れない



手を消毒

マスクが ない時は・・・

手で押さえて咳をしたら、周囲の
物に触らずに、すぐに手を洗う。

正しい咳エチケット



ハンカチや
ティッシュで押さえる

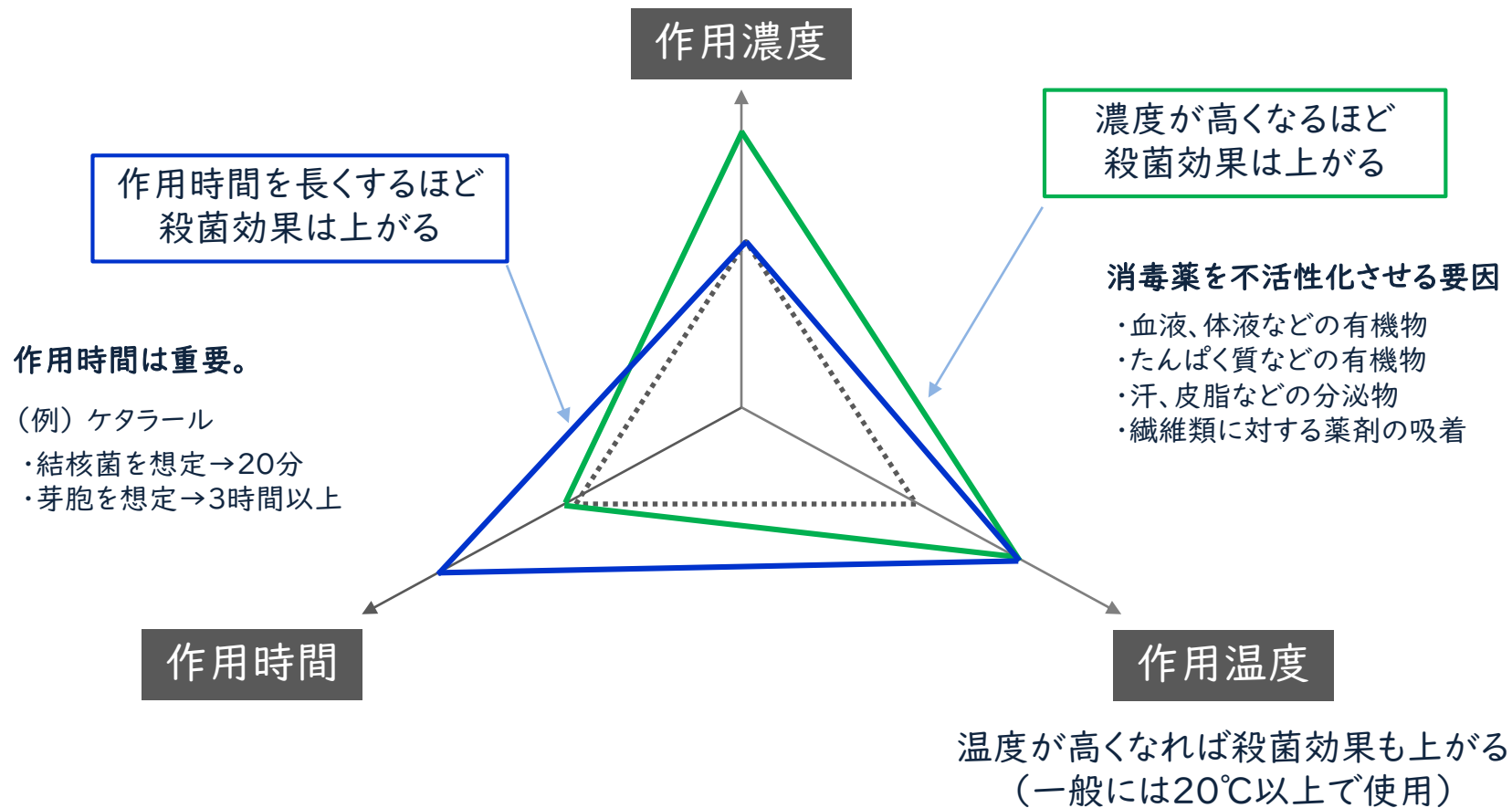


そでぐち
袖口で押さえる



マスクで押さえる

消毒について



消毒時の注意事項

- 適切な消毒液と消毒方法を選ぶ。
 - ・消毒したいのが人体なのか物品なのか。物品の素材は？
- 消毒液は20℃以上で薄める。
 - ・水温が5℃以下では消毒効果を発揮できない消毒液もある。
- 消毒前に、消毒したいものをよく洗浄する。
 - ・血液や体液などの有機物があると、消毒液が病原体に十分に接触できない。
- 洗剤をよく流してから使用する。
 - ・洗剤に含まれる界面活性剤が消毒液の効果を弱める。
- 使用濃度を守る。
 - ・濃度が低すぎても高すぎても消毒効果を得られない。
- 消毒液と消毒したいものを十分に接触させる。接触時間は守る。
 - ・消毒液と直接接する表面のみ消毒される。接触時間が短いと十分な効果が得られない。
- 噴霧しない。
 - ・効果が不十分。吸い込むと危険。
- 作り置きはしない。
 - ・薄めて使うものは、使用時に作る。
- 使用期限を守る。

消毒液の特徴

薬品名等	塩素系消毒薬（次亜塩素酸ナトリウム等）		アルコール類（消毒用エタノール等）
消毒の濃度	0.05%（500ppm）	0.1%（1000ppm）	原液（製品濃度 70～80%の場合）
有効な病原体	全ての一般細菌、真菌、結核菌、ウイルス（新型コロナウイルスを含む）		全ての一般細菌、真菌、結核菌、 一部の ウイルス（新型コロナウイルスを含む）
消毒が効きにくい病原体	なし		ノロウイルス、ロタウイルス等
消毒をする場所・もの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手指やドアノブ、玩具、調理器具など、日常の消毒 ・ 食器等のつけ置き 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 便や嘔吐物の付着した便座や床などの消毒 ・ 衣類等のつけ置き 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手指 ・ 手指やドアノブ、玩具や調理器具など、日常の消毒
消毒方法	<ul style="list-style-type: none"> ☞ 部屋の換気を十分に行った上で消毒する。 ☞ 消毒するものに直接スプレーしたり、空中に噴霧はしない。ペーパータオル等に消毒液を染み込ませ、同一方向に拭く。 		
注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人体への有害性があるため、手指への消毒や空中噴霧は絶対にしない。 ・ 酸性物質（トイレ用洗剤等）と混ぜると、有毒な塩素ガスが発生するので注意。 ・ 金属腐食性が強く錆びるので、金属に使う場合は最後に水拭きをする。 ・ 直射日光の当たらない涼しいところに保管する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 引火性があるため、空間噴霧は絶対にしない。 ・ 刺激性があるので、傷や手荒れのある手指には用いない。 ・ ゴム製品、合製樹脂等は、変質するので長時間浸さない。 ・ 手洗い後、しっかり乾燥した状態で用いる。